

温室における蒸気暖房配管からの植付距離とキクの生育開花との関係

安部秀雄

蒸気で暖房する場合、フィン管の使用で配管面積を少なくすることができるが、フィン管の温度は100°C以上になる欠点がある。そこで一つフィン管に菊をどの程度まで近づけて栽培できるか、またフィン管を長くすることによって生じる温度の場所的变化が菊の生育の一性をどの程度そこなわせるかを知り、良質の切花を多く得るための方策を検討した。

1. フィン管の温度が100~115°Cの高温になっても、菊がフィン管に直接触れない限り生育障害は生じなかった。これはフィン管から20cm離れると、フィン管が室温より低いためである。
2. フィン管の温度は蒸気のインプット側で100°C以上に達したが、アウトプット側では50°C以上に上昇しなかった。これはフィン管の中にドレンが溜るため、トラップの数を増加し、ドレンを速かに回収するとフィン管温度の場所的差異を減少させることが可能である。
3. フィン管温度の場所的变化により、温室内温度の場所的变化を生じたが、温度が低い所では切花本数が減少した。これを回避するには、ファンなどで空気を攪拌する必要がある。